劇団きづがわ創立55周年記念・第77回公演

劇フェス2018大阪劇団協議会フェスティバル№46

鶴彬―暁を抱いて

原作・吉橋通夫／脚本・佐伯洋・西村康悦・松本喜久夫／演出・林田時夫

暁をいだいて闇にゐる蕾

枯れ芝よ！団結をして春を待つ

手と足をもいだ丸太にしてかえし

胎内の動き知るころ骨がつき

2018 12/15㊏ 11:00 16:00 / 16㊐ 14:00

リバティーおおさか
（大阪人権博物館）

前売り/一般3,000円/シニア（65才以上）2,500円/U30・障害者2,000円（当日500円増し。）

後援　一般社団法人日本川柳協会

燐寸の棒の燃焼にも似た命
暴風と海との恋を見ましたか
ふるさとは病ひと一しょに
帰るとこ
玉の井に模範女工の
なれの果て
ざん壕で読む妹を売る手紙
暁をいだいて闇にゐる蕾
枯れ芝よ！
団結をして春をまつ
タマ除けを生めよ殖やせよ
勲章をやろう
召集兵士産待つ子を
夢に見る
高粱の実り〈戦車と靴の鋲
屍のゐないニュース映画で勇ましい
出征の門標があって
がらんどうの小店
万歳とあげて行った手を
大陸において来た
手と足をもいだ丸太に
してかへし
胎内の動き知るころ骨がつき

劇団きづがわ創立55周年記念・第77回公演
劇フェス2018（大阪劇団協議会フェスティバルNo.46）

鶴彬 ―暁を抱いて

原作・吉橋通夫／脚本・西村康悦／演出・林田時夫
松本喜久夫

佐伯　洋

解説

昭和初期、日本が十五年戦争、中国への侵略戦争に突入していく暗黒の時代に、《川柳》の革新と芸術的向上をめざし、その川柳を武器に、反戦・反権力を貫いた若者がいました。

鶴彬、本名・喜多二（きたかつじ）。一九〇九年（明治四二年）一月一日、石川県河北郡高松町（現在かほく市）の貧しい竹細工職人の次男として生まれ、一五歳の頃から北国柳壇（北国新聞）に川柳を投稿しはじめます。

二九年という短い生涯に、革新川柳人として二〇四四句の川柳、一八編の詩、九四編の評論を残し、治安維持法で二回検挙、東京の特高警察に収監のまま、赤痢に罹って獄死しました。

この間、一七才で大阪を訪れ、町工場で働き、その後、上京し川柳の総本山と言われた井上剣花坊の庇護を受け、最大の川柳誌「川柳人」に「僕らは何を為すべきや」を発表、プロレタリア川柳を宣言します。

金沢第七連隊入隊後、「無産青年」持ち込みにより、赤化事件として懲役二年の判決を受け、大阪城内の衛戍監獄に投獄されます。除隊後約四年間、反戦・反権力の川柳、貧困とのたたかいに終始しますが、一九三七年（昭和十二年）十二月、一説には大阪の川柳人「三味線草」の主宰者に密告されたと言われ、東京・野方署に収監、激しい取り調べを受け、何故か赤痢に罹り、豊多摩病院に移送され、一九三八年（昭和十三年）九月一四日、無念の死を遂げました。

今年は、鶴彬・獄死八〇年―。これは、『鶴彬・暁を抱いて』（原作・吉橋通夫）をもとに、川柳を武器にたたかい抜いた鶴彬の半生を劇化・上演するものです。

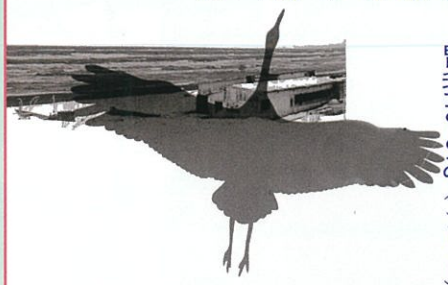
雪崩うつ戦争の時代、命がけで反戦を貫いた若き川柳人・鶴彬の生涯！

スタッフ

原作　吉橋通夫
佐伯　洋
脚本　西村康悦
松本喜久夫
演出　林田時夫
舞台監督　北尾利晴
美術制作　和田雅子
大道具　三村省三
照明　新田三郎
音響効果　照島佳宏
映像　溝口隆徳
制作　和田雅子

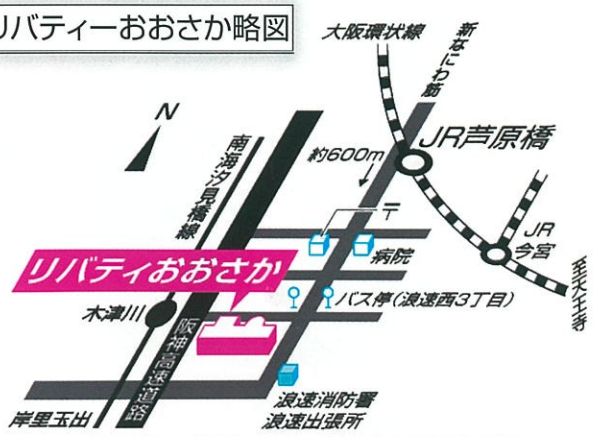
出演者

寺島由浩　和田雅子
中屋光雄　橋本依子
山田一巳　山村八子
中山講一　橋野悦子
河原正隆　西尾純子
島本拓治　椎名千浪
坪井正太　林田彩
小森健司　平山憲子
（応援出演）
坂口勉　曽我さとみ（フリー）
平尾光秋
信田政博
秋田高志
古謝伸二
長山昇三朗



「暁をいだいて闇にゐる蕾」の句が刻まれた大阪城内・衛戍監獄跡地（豊国神社東側）にある鶴彬の顕彰碑（2008年9月14日建立）

リバティーおおさか略図



JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ約600m
JR環状線「今宮駅」下車、西へ約800m
南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ300m

リバティおおさか（大阪人権博物館）
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西 3-6-36
TEL:06(6561)5891

劇団きづがわ　〒551-0031 大阪市大正区泉尾 4-2-7　TEL&FAX 06-6551-3481（携帯）090-7359-7335